

組織の圧力で
異論を封じ込め

改革せよ、 日本共産党。

解消されない
パワハラ問題

「(マルクスが好んだ言葉)『すべてを疑え』は、日本共産党にこそ向けられるべきだった。(中略)少なからぬ共産黨員や支持者が、……自分と似たような意見や感想を持っている。こうした方々は、心から共産党の改革を望んでいる」
(離党した元共産黨員)

なぜ共産党執行部の**圧力**による 「**異論封じ込め**」が続くのか？

＼「民主集中制」がパワハラ体質の温床／

民主集中制とは、聞こえはいいが、**政治的独裁の制度的保障**である。いったん民主集中制にもとづく**独裁的権力**を手にした党幹部が、自発的にそれを手離すことなどありえないのである。
(立花隆『日本共産党の研究』文庫版あとがき)

これは今から40年も前(1983年)に書かれたものです。このような「**共産党の組織的本質**」は変わらず、現在もパワハラ体質の温床となっているのです。

STOP!
パワハラ
1

除名問題に疑義を持った
地方議員・党員への圧力はやめるべき

党大会での田村智子・新委員長の「**パワハラ発言**」に対して、現役党員の一部が謝罪を要求。一方、党執行部は、批判や意見した者を“分派”と見なし、さらに攻撃する姿勢を強めています。党員のSNSでの発言も常時監視されています。

STOP!
パワハラ
2

共産党議員から市職員への
赤旗「パワハラ勧誘」はやめるべき

共産党議員が市役所職員に**不当な圧力をかけて**「しんぶん赤旗」の購読を迫る「**パワハラ勧誘**」が全国で問題になっています。愛知県あま市でも「**赤旗を購読しないと一般質問するぞ!**」と強要していた事実が発覚。市は、政党機関紙購読を「一旦白紙」とするなど、職員への救済措置に踏み切りました。

STOP!
パワハラ
3

いつまで続ける？ 党員への
赤旗拡大の圧力はやめるべき

赤旗の部数が急激に減り続けています。党執行部は「赤旗は中央機関を支える最大の力。このままでは廃刊の危機」と、支部や党員に購読拡大へのさらなる圧力をかけています。党員からは「**党中央は無能なのか。赤旗拡大を叫ぶ以外の収益方法を考えてくれ**」というぼやきが聞こえてきます。

党員の多くも「心から共産党の改革を望んでいる」

しょうきょう

国際勝共連合

東京都千代田区九段南3-8-14 2F

当連合は、創立55周年を迎えた保守系の政治団体です。詳しくはHPをご覧ください。

www.ifvoc.org 》

